

Y14b 小さい子供が楽しめる授業例

臼田-佐藤 功美子 (国立天文台ハワイ観測所)

子供と科学者は似ている。自然に興味と疑問を持つし、自分で観察、実験したがるからだ。「理科」という教科を認識する前から、子供の興味を自然と宇宙に向け、「科学する心」を育てることが大切である。子供向け絵本やテレビ番組からヒントを得た、保育園・小学校低学年層に親しみやすい授業のうち、以下の3例を紹介する。

1. 地面から徐々に高度を上げ、宇宙まで出る「詩」。地上にあるもの、宇宙にあるもの、天文学者の使う望遠鏡を紹介する。3～5歳向き。(エリック・カールの絵本 "Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?" よりヒントを得た。)
2. 「月はどのくらい遠い？」の紙芝居。ある夜、女の子がパパに「お月さまをとってきて」とおねだりする。パパは長いはしごを持って高い山、マウナケア山に上るが、月に手が届かない。その時、望遠鏡から天文学者が出てきて、月がどのくらい遠いかを説明する。4～6歳向き。(エリック・カールの絵本 "Papa, Please get the moon for me" よりヒントを得た。)
3. 太陽系内惑星の歌。アメリカの人気子供番組 Blue's Clues で登場する "The Planet Song" を、実際の天体画像と組み合わせながら歌詞の意味を説明する。小学校2～3年生向き。

詳しくは、臼田-佐藤 功美子のホームページ > 天文学教育・普及活動 > 授業内容のアブストラクト(英語)を参考にいただければ幸いです。<http://www.naoj.org/staff/kumiko>